

【Insectopia (インセクトピア)】とは：insect (虫) と utopia (理想郷) を掛け合わせた造語
『蟲たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。



「暮らしを守る」害虫獣との向き合い方の進化

人々は、ネズミや害虫と向き合いながら、時代ごとに暮らしの中で知恵と工夫を重ねてきました。本号では、害虫獣対策の歴史をたどり、現代の持続可能な防除手段「IPM」への新たな向き合い方をご紹介します。

害虫獣対策の歴史と現代

古代の知恵【祈りとねずみ返し】

弥生時代にはネズミによる農作物被害が深刻な問題となり、災厄を防ぐまじないや祈祷が行われていました。穀物を守るための建築的工夫「ねずみ返し」が登場したのもこの時期です。これは高床倉庫の柱に傘状の突起をつけ、ネズミの侵入を防ぐ知恵で、現代の防鼠構造にも通じるものです。

中世の工夫【猫と薬草で「共生」の知恵】

平安～鎌倉時代には、猫がネズミの天敵として定着しました。防鼠の実用性が認識され、寺社や民家で重宝されました。また、よもぎ・菖蒲・沈香などの薬草を焚く虫除け文化も広まり、自然の力を生かした対策が発達しました。

江戸の対策【町ぐるみの防除】

江戸時代には、竹製のネズミ捕りや「鼠売り（職業ねずみとり）」が登場しました。薬屋からは虫除け香や粉末の防虫剤が市販され、庶民も身近な対策を取り入れるようになりました。その実用性が見直され猫人気も再燃し、浮世絵にも描かれるほど日常に根づいていました。

こうした歴史を振り返ると、ネズミや害虫への対策は単なる「駆除」ではなく、自然と共生しながら生活を守る知恵の積み重ねであったことが分かります。

- ・「ねずみ返し」→ 現代の物理的防除
- ・「猫の飼育」→ 生物防除
- ・「薬草・香」→ 天然素材の防虫グッズ

これらの伝統的な知恵は、いま注目されるIPM（総合的病害虫管理）の考え方にも繋がっています。

IPM（総合的有害生物管理）という考え方

IPMは、あらゆる防除技術「耕種的防除、物理的防除、生物的防除、化学的防除」を組み合わせ、環境への負荷を軽減し経済的な被害を出ないレベルを維持しようとする考え方です。

IPMに求められる基本項目

- ① 対策の結果が人や環境への影響の軽減に役立つよう配慮する。
- ② 発生予防に努め、発生源対策に重点を置く。
- ③ 防除水準（管理目標）を定めて対策を実施する。
- ④ 調査を義務づけ、調査結果に基づいて対応する。
- ⑤ 対策の評価（効果判定）を実施する。
- ⑥ 継続的な目標維持をはかる。
- ⑦ 器具、薬剤等の使用も含め、総合的な対策を図る。

近年、天然成分を使った防虫用品など、安心・安全を重視した対策も広まり、これまでの知恵が現代の防除手段として生かされています。

暮らしを守る、知恵の継承

ネズミや害虫への対策は、時代とともに進化してきましたが、その根底にあるのは「大切な暮らしを守る知恵」です。私たちはこれからも、環境や生き物に配慮しながら、持続可能な対策を実践し、日々の暮らしを支える活動を広げてまいります。



湿気が招く室内害虫「チャタテムシ」 にご注意！

今年もじめじめとした梅雨が到来しました。この時期、お部屋で小さな虫を見かけたら、それは「チャタテムシ」かもしれません。

チャタテムシとは？

チャタテムシは、蒸し暑く湿度の高い環境を好む小さな昆虫です。特に梅雨時期から夏～初秋にかけて活発になり、湿度の高い屋内でよく見られます。生育に適した条件は、温度24～29℃、湿度75～90%とされており、これはチャタテムシの主なエサであるカビ類の繁殖条件とも一致します。カビ類のほか、花粉・穀粉・玄米・そば殻などの微粉状の有機物も好むため、食品庫や収納棚、畳や布団などにも潜んでいることがあります。

驚異の繁殖スピード

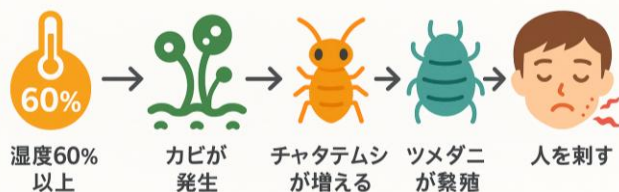
チャタテムシは毎日1～2個の卵を産み、約9～13日で孵化します。さらにその後も9～13日ほどで成虫へと成長するため、わずかな数週間で急激に数が増加します。

チャタテムシによる被害

チャタテムシが食品や植物の腐敗物に触れることで細菌が繁殖し、病原菌の拡散につながる恐れもあります。また、死骸や排泄物がホコリと混ざることによってアレルギーとなり、アレルギーを引き起こす原因にもなります。

二次被害「ツメダニ」に注意！

チャタテムシが発生すると、それをエサとするツメダニも増加します。ツメダニは人を刺すことがあり、かゆみや皮膚の炎症など、思わぬ二次被害につながる可能性があります。



湿度＆衛生管理でしっかり予防！

チャタテムシは繁殖力が高く、一度発生すると駆除が困難になります。発生を防ぐには、日常的な湿度と衛生の管理が非常に重要です。

～チャタテムシ予防の3箇条～

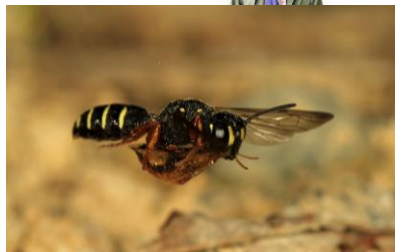
1. 除湿・換気を行なう（湿度は50%以下が目安）
2. こまめな清掃とカビ対策を心がける
3. 食品やゴミを放置せず、密閉・早めの処理を徹底する

チャタテムシの予防には、殺虫剤に頼るよりも、発生源を絶つことが最も効果的です。殺虫剤は環境への負荷や人への影響も考慮が必要なため、まずは湿度や清潔さといった根本の環境づくりを見直すことが大切です。

今月のInsect



写真/解説
中峰 空
8thCAL技術顧問
真面目昆虫館館長



アカアシツチスガリ

（赤脚土蜾蠃）

ハチ目ギングチバチ科

学名：Cerceris albofasciata

アカアシツチスガリは獲物として甲虫目ハムシ科カメノコハムシ亜科の成虫を専門に狩る単独性狩蜂である。最近、巣穴の直径よりも小さいハムシを選択して狩ることが明らかになった。写真は獲物のレイズジंगाサハムシを抱えて巣に戻ってきたところ。ハムシの触角を咥えて運ぶ。

Information

- Pick up 展示会情報
害蟲展season6 開催決定！
※8thCAL主催の公募展です

公式HP



害蟲展X



害蟲展Instagram



GAICHUTEN

- 「トコジラぬ」トピックス情報

「トコジラぬ白書2025」リリース！

→ <https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000023.000082097.html>

予防×駆除サービスの特設サイト「トコジラぬ」を設置しています！

→ <https://ur0.jp/vd5EN>

Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！

QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。
ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を
配信中です。

